

## 令和5年度 第1回松山地域協議会会議録

日 時 令和5年5月30日（火） 午後1時30分～3時30分  
場 所 松山農村環境改善センター

出席委員 13名

岩崎 彩 小林 正利 石川 百合子 富樫 とも子  
莊司 東一 加藤 恭子 齊藤 薫 平向 邦夫  
田村 敬子 木村 美津枝 櫻田 憲彦 井上 亜紀子  
莊司 徳由

欠席委員 2名

今井 一博 清野 淳

酒田市出席者

酒田市副市長	安川 智之
松山総合支所長	鈴木 啓介
松山総合支所長補佐兼地域振興係長	佐藤 賢治
松山総合支所長補佐兼建設係長	堀 伸一
松山総合支所管理防災主査	土井 俊彦
松山総合支所健康福祉係長	富樫 明子
松山総合支所市民係長	佐藤 洋子
松山総合支所産業係長	工藤 慶
健康課長	小田 雅之
健康課長補佐	丸藤 真也

### 1 開 会

○開会の言葉 佐藤支所長補佐

### 2 委嘱状交付

○安川副市長から委員へ委嘱状を交付

○安川副市長あいさつ、あいさつ後副市長退席

### 3 自己紹介

- 名簿順に委員が自己紹介
- 松山総合支所職員の紹介
- 支所長から、地域協議会の概要について説明

### 4 会長、副会長の選出、あいさつ

- 事務局の推薦により、会長は平向邦夫委員、副会長は木村美津枝委員へ、全会一致で承認
- 平向邦夫会長、木村美津枝副会長よりあいさつ

### 5 議事録署名人の指名

- 事務局より議事録署名人に、小林正利委員を指名

### 6 報告

#### (1) 病院機構シャトルバス運行の見直しについて（健康課）

～小田健康課長より、「利用人数が少なく、廃止を含めた見直しを検討したい」という旨を説明～  
(岩崎彩委員)

運行費用は、令和4年はどのくらいか。令和5年度は昨年度に比べて高くなっているか。

(健康課長)

令和4年度は500万弱であった。ガソリン代の高騰により高くなっている。

(富樫とも子委員)

シャトルバスを利用するには申請等の手続きが必要か。どのような人が乗車できるのか。

(健康課長)

松山診療所の医師が診察した際、CT・MRI検査等で日本海総合病院を紹介された方で、交通手段がない人が自分の判断で乗車が可能。定員が7人プラス車椅子2台のワゴン車であるため、乗車の際に確認はしないが目的外の方は控えるように説明してきた。

(岩崎彩委員)

紹介された患者のみとなると乗車できる対象者は、限定されるのでは。

(健康課長)

松山診療所で診療が完結することを想定していた。診療所の患者さんで、CTやMRIなどもっと高度な検査が必要になり、紹介された場合だけなので、乗車できる人は限定される。

(田村敬子委員)

このようなバスがあるとは知らなかった。月曜から金曜の毎日運行か。午後便は乗車する人が

いないようだが、0人でも運行しないといけないのか。

(健康課長)

月曜から金曜の毎日運行している。当初シャトルバスは八幡地区だけと想定していた。松山地区は当時からデマンドタクシーがあり、交通手段は確保されていたので提案しなかった。しかし地域説明の際、「八幡地区のみ無料シャトルバスで日本海総合病院まで行けるのは不公平だ」という意見が出て、松山地区も運行することになった。いずれは乗る人が少なくなると見直しが必要になると説明していた。

(小林正利委員)

八幡便は日本海総合病院と直結で往復しているが、松山便も同じように直結で往復できないのか。

(健康課長)

松山便はリハビリテーション病院所有の車両であるため、接続の関係でこのようなスケジュールになる。八幡便は、八幡クリニック所有の車両を使用しているため直結での運行が可能となっている。

(岩崎彩委員)

シャトルバスが廃止となったら、その予算をデマンドタクシーの値下げや値上がり抑制に回せないか。

(健康課長)

デマンドタクシーの料金については、所管が違うので回答はできない。ただ、廃止によってデマンドタクシーの利用が増えることが想定され、そのタクシーの運行経費は市が負担する。

(岩崎彩委員)

シャトルバスを廃止したら、今まで無料で乗っていた人から苦情が出るのではないか。

(健康課長)

実際は本来の目的以外の人が多く乗っているようだ。本来の目的の人がどの程度いるのか、現在行っているアンケートにより実態を把握し、その内容によっては本来の目的の方に何か対策を考えていきたい。

(井上亜紀子委員)

松山診療所は診察日が減っている。本来の目的である紹介患者も減っていて、いずれいなくなるのではないか。

(健康課長)

松山診療所は、現在は医師の急な体調不良で診察日が減っている。診察日については先のことは分からないが、患者は減っていくと思う。シャトルバスも廃止ありきではなく実体を把握し皆

様に相談していきたい。

(井上亜紀子委員)

以前のように、週5日診療とならないか。

(健康課長)

松山診療所は、自治医科大卒の医師、山形県の奨学金をもらった医師が配置されるが、その医師は9年間は県内のへき地の診療所に勤務することになっている。その医師の勤務地の調整は県が行い、日本海総合病院への配置人数が毎年変わること、また病院での業務もあるため何とも言えない。

(井上亜紀子委員)

シャトルバスだけではなく、松山診療所のことを総合的に考えなければならない。

(平向会長)

シャトルバスに本来の目的以外の人が乗っているという状況が見られる。そのような人が乗っても、この人数しかならない。まずはアンケート結果を見て考えていただきたい。

(石川百合子委員)

デマンドタクシーは、自宅までくるので便利だ。デマンドタクシーの本数を増やすとか、料金を下げるとかできないか。

(健康課長)

デマンドタクシーについてのご意見は担当課へ伝える。まずは、アンケートの結果を見て、皆さんと相談したい。

(平向会長)

デマンドタクシーは、申し込めば誰でも乗れる。南部地区は商店がなく買い物ができないので、デマンドタクシーで余目に行きたいと要望してきた。当初、余目はダメだと言われたが、今は余目のヤマザワへ行けるようになり便利になった。松山地区は利用率が高いと聞いている。デマンドタクシーの利用者が増えれば安くなるかもしれない。コミセンやコミュニティー振興会を含めてみんなでデマンドタクシーに乗りましょうと伝えている。

(木村副会長)

シャトルバスに乗る本来の目的の方へ、デマンドタクシーの無料券を配布できないか。

(健康課長)

まずはアンケート結果を見て、また相談したい。

(平向会長)

要望については秋に自治会単位で提出していただき、取りまとめて酒田市へ上げている。今のお話は地域協議会ではなく、自治会の要望として上げていただきたい。

(小林正利委員)

本来の目的以外の人も乗るとのことだが、アンケートは皆さん正直に記載しているのか。

(健康課長)

4月分は出てきたが、いつ乗車したのか、年代、性別、地区などをお答えいただいている。おおよそは大丈夫だと思う。

(平向会長)

皆さん正直に書いていると思う。まずは、この結果を見てまた相談したい。

## (2) 令和5年度松山総合支所管内の主な事業について

～鈴木支所長が資料に基づき説明～

## (3) 令和4年度市長報告会について

～平向会長が資料に基づき説明～

(小林正利委員)

先日、防災無線の誤作動があったが、何が原因だったのか。

(支所長)

情報によれば職員の操作ミスとのことであった。ダブルチェックなどヒューマンエラーを防ぐしかない。ほかにもラジオが他の電波を拾い、今までも誤作動があったと聞いている。危機管理課を通じ業者へシステムのエラーが出ないように対処をお願いしていく。

(小林正利委員)

誤作動があったときに防災ラジオを自動で消せる方法はあるのか。

(支所長)

機種にもよるが、電源を落とすしかない。

(櫻田憲彦委員)

自分の子供たちは志布志市の子供たちと交流をさせてもらった。今までコロナで交流が中止していたのは理解できるが、コロナが落ち着いた今年度も予算付けがないのはなぜか。

(支所長)

松山地域に限らず、八幡・平田も交流事業をおこなってきた。先程説明した財政健全化に向けた取組み30-30(サーティー・サーティー)により、令和5年度の市のイベントはほとんど休止し、効果等を検証している。交流事業は先方の考えもあることから連絡を密にとりながら、オンラインなどできる交流は行いつつ、来年度予算に向け検討をしていきたい。

(荘司徳吉委員)

コロナ等で休止となった事業を一旦止めると再開するのは難しい。何か継続される形で残せるものを考えていただきたい。また、防災行政無線についてだが、外部スピーカーの聞こえが悪い。以前は戸別受信機が家の中にあり地域独自で情報を流せたが、今は市全体にしか流せない。地域的な危険がある場合は外部スピーカーだけだと家にいると分からない。向きも変えるなど聞こえやすくする方法があると思うので、風向きの影響と解決しないで考えてもらいたい。

(支所長)

防災行政無線を所管する危機管理課に伝える。来年度以降真に必要な予算は、協議会の皆様の意見を頂戴しながら、予算要求や市長提言していきたい。

(荘司徳吉委員)

天体観測館コスモス童夢を廃止すると聞いているが本当か。

(支所長)

昨年の地域協議会には令和5年度は休止ということで説明させてもらったが、廃止を前提とした休止となっている。再開するには全体的に老朽化していることから相当な予算がかかり、やむを得ない判断であると考えている。

(荘司徳由委員)

開閉できないと聞いているが費用はどの程度かかるのか。

(支所長)

金額は担当課に確認しないと分からない。公共施設を作る分には補助金や有利な起債（借金）があるが、修繕や維持経費はすべて税金で賄われる。一旦立ち止まって投資効果を検証し判断することになっている。

(荘司徳由委員)

松山からすべてなくなっている。何とか何かを残さなければならない。コスモス童夢は東北有数の天体観測施設。人が入らないのは当たり前。星の見える夜は金曜日の夜しか開館していない。興味のある方は東北各地から来ている。こんな立派な天体観測する施設があるのに活用されていない。あることすら市民も知らない。市からはこんな素晴らしい施設があることを発信し残してもらいたい。

(岩崎彩委員)

SNS等で発信できないだろうか。地域活性化の活力のある方々からきてもらいSNSでPRしてもらえないか。

(荘司徳由委員)

市からは、もっと発信の仕方やお金の集め方など施設を残し活用するためにはどうしたらいいのか考えてもらいたい。天体観測専門の地域おこし協力隊の方からきてもらい施設の管理やSN

Sでの発信をしてもらうことはできないか。

(平向会長)

委員の意見はもっともな意見である。ただし、いつまでも市に頼っていては成り立たない。市民からこのように使いたいので残してもらいたいと提言できれば、内容によっては受け入れてもらえるかもしれない。協議会より市長へ提言ができるよう、活発な意見を出してもらいたい。

(木村副会長)

さんさん再開の目途が立つ可能性はあるのか。

(支所長)

農林水産省の補助金を活用し建設された施設であることから、行政財産の目的外使用許可について協議を続けてきた。ようやく許可が下りる見込みがたった。4月の松山地区自治会連合会総会において、市長より市内企業から活用したいと提案があったことを報告している。今後の活用に向けて協議していく。

(齋藤薫委員)

松山体育館の改修だが、以前は、国体記念体育館の次は八幡体育館、その次に松山体育館の改築と聞いていた。松山には里仁館の体育館もあるので今後の活用計画はどうなるのか。

(支所長)

松山地区自治会連合会総会で市長が、松山体育館はいずれ使えなくなったら別の施設へ集約するしかないと言っている。

(加藤恭子委員)

松山体育館が使えなくなったら、小中学校を開放していただけるのか。

(支所長)

小中学校の体育館については、現在も夜間開放をしている。

(小林正利委員)

里仁館は山形県の運営ではないのか。

(支所長)

山形県は施設の管理、運営は酒田市が補助している。

(小林正利委員)

このような生涯学習の取組みは酒田市内にはないので、里仁館を残していただきたいという意見がある。

(支所長)

山形県に対してあらゆる機会をとらえて継続を強く要望していく。

(富樫とも子委員)

「いいいじゅ〜！！」というTV番組がある。それを見ると、松山に移住している人もいる。私達も頑張らないといけない。いい松山にしていけないといけない。

(平向会長)

北町に移住者が1家族来ている。新たに旧消防庁舎跡に建設された移住者向け住宅「とちとさかた」はほぼ埋まっているとのこと。

(支所長)

市の人口が減少している。一方で移住は増えてきている。市の良さをアピールしていきたいと考えている。皆様からも宣伝していただければ。

## 7 協議

(1) 松山地域の振興について

(2) 松山協議会の在り方について

(支所長)

市長報告会の会長の発言より、今の協議会が形骸化しており、要望を聞くだけの場となっているなどのきらいがあるため、本来の設置目的に立ち返る必要があると考えられる。協議会は地域の意見を市長に提言していく重要な場である。眺海の森の遊休施設の活用策、フジストアの撤退による買い物支援対策など地域の課題について皆様と考えていきたい。

会長の発言を受け、3支所地域協議会の会長と副会長が集まり協議会の在り方について検討するよう市長より指示があった。次回以降の協議会において、その代表者会議での方向性を皆様に報告するので、協議会の在り方についてご意見をいただければと考えている。

(平向会長)

市長としては、地域の意見を聞く大切な会議なので残してもらいたいが、地域の判断で休むのは構わないと言っている。私としてもせっかくある協議会をなくすわけにはいかないと考えているが、一旦地域協議会の在り方を3支所で相談してみる。今年は協議会をあと3回開催する。地域協議会から意見を発信できる場にしていきたい。

## 8 閉 会

(平向会長)

これで第1回松山地域協議会を終了する。円滑な議事進行に協力を賜り、感謝申し上げます。